

■ ■ ■
□原色版『天城山麓』は昨年一月の寫生にしてワットマン四ツ切大に御座候。

全『雨後の夕』は甲州烏澤の町にしてワットマン四ツ切大に御座候。全『興津海岸』は強き夕日の色彩を主として寫せしものにて、時は一月初め、大きさは一尺四寸に九寸程に御座候

□次號には『風景畫法のうち圖畫』『靜物寫生の話』『三脚物語』『ワッツ論』の續稿を出すべく、其他新しき講話も出べく候
□澳國水彩畫家ヘンリーデヒット氏に關する記事は二三の挿繪と共に次號に掲出可致候

□次號の挿繪は、原色版に磯部氏の『早春』藤島氏の『銚子海岸』大下氏の『雪の駒ヶ嶽』其他、小豆島風景の石版及寫眞版、並びに一行の肖像等に御座候

□桑田式包装は當分本會にては調製不致候間、厚きボール紙一枚を合せその中に畫を挿み糸に絡げて御送り下され度候。

猶送る時の都合よきのみならず、當方より返送致す時に出来るだけ手數のかゝらぬやう御注意有之度候

□寄書はなるべく簡單に願ひたく、また完結せしものにあらざれば登載致さず候。次に繪畫に何等の關係なき汽車沿道の光景のごときは、よほど面白きものでなくば採用致兼候間、そのやうなものは御見合せ下されたく候

□日本水彩畫會十二月例會は二十八日開會、出品百餘點、同日デッサンコンクールの結果を報告致候。畫の部第一席相田寅彦氏、第二第三席赤城泰舒氏、夜の部第一第二席水野以文氏に御座候。批評終つて忘年會に移り夜に入つて散會致候
□同一月例會は二十二日午前開會、出品畫五十餘點に對し、藤島、磯部、織田、大下諸氏の批評あり。午後より新年會を開き、喜劇、琵琶其他數十番の盛なる餘興あり、終てカルタ會を催ふし夜分散會致候。詳細は次號に報導可致候

紹介

◎支那仙人列傳 東海林辰三郎著

本郷區龍岡町 聚精堂發行

菊判クロス綴五百頁定價金壹圓

三拾錢

古來世に傳ふる支那仙人の傳記中二百五十餘人を選び、其傳説を詳記せしものにて、列仙傳載する處の挿繪は普く網羅されたり。大部の冊子なれば未だ讀了せざれど二奇警なるあり怪異なるあり不思議なるあり、そのお伽話をよむが如き中に往々修養に資すべき事實少なからず。春寒の候、火爐を擁して窓下に此書を繙かば、恰も仙境に遊ぶの感あるべし。製本質素にして美また書架を飾るに足らん。

◎『寫生趣味』第四號には『畫の要素』『臺灣の色彩』『佳い畫をかく心がけ』『繪具の並べ方』『樹木と草』『寫生帖』其他數項あり不相變分りよく親切なれば初學の人には好參考といふべし（一部五錢送料二錢、臺北小南門街一丁目三十二、紫瀾會發行）